

Cascais

について



カスカイス

海に面し、もともと一漁村にすぎなかったカスカイス（Cascais）は、14世紀に大きな発展の時代を迎えました。この頃カスカイスは、リスボン（Lisboa）へ向かう船の一大寄港地として、大変なにぎわいをみせるようになりました。

しかし19世紀後半に入り、一般的なレジャーとして海水浴の人気が高まると、その影響で町は最新流行の夏のリゾート地として生まれ変わりました。その背景には、ポルトガル国王ルイス1世（D. Luís I）の存在が大きく関わっています。国王は、1870年に城の砦をポルトガル王家の夏の離宮に作りかえました。すると貴族たちも早速国王の例にならい、競うようにこの町に館や美しい別荘を建て、そこで1年の最も暑い時期を過ごすようになりました。それにより、かつての漁村はすっかり見る影もないまでに変貌をとげました。

カスカイスはまた、好事家たちの興味を引くようになり、彼らがこの地を訪れては海辺を散策するようになりました。さらに1889年にはペドロウソス（Pedrouços）とカスカイス間に鉄道路線が開通し、この町への交通の便は格段によくなりました。今日のカスカイスは活気にあふれた国際色豊かな町であり、そこにはかつての貴族的な雰囲気が今も色濃くただよっています。

とりわけお勧めしたいのは、町の通りの散策です。通りをめぐれば、そこには一流品店が並び、町のいたるところでレストランやカフェがオープンテラスを広げています。そこでゆっくりとひとときを過ごすのもまたよいものです。ビーチは今もカスカイス最大の呼び物であり、町の奥まった入り江には多数のビーチが無数に存在しています。また、町から少し離れたギンショ（Guincho）付近では（すでにこの周辺はシントラ・カスカイス自然公園（Parque Natural Sintra-Cascais）の一部になっています）、サーフィンやウィンドサーフィンに格好の条件が整っています。地獄の口（Boca do Inferno）は、切り立つ岩と洞窟に囲まれた海岸にある洞です。その自然の妙は、多くの旅行客を引きつけては海の荒々しさに驚嘆させています。

また、忘れてならないのがこの地の郷土料理です。ことに注目すべきは新鮮な魚とシーフード料理であり、この地方の多くのレストランで楽しむことができます。